

## 【恵那市】 校務DX計画

### 【これまでの推進】

恵那市では、令和3年度に岐阜県内の自治体と共に統合型校務支援システムを導入しました。そこでは、従来は各学校にてそれぞれの方法にて管理を行っていた各種校務情報を、1つのシステム上にて一元管理する事で、手作業や紙ベースでの作業などの削減など、業務効率の向上や安全な情報管理へと繋げてきました。

また、県内学校でシステムを統一する事で、学校間や教育委員会との連携や教員・生徒児童の市外異動時のデータ移行などを確実・安全で円滑に行うことが出来るようになりました。

一方で、令和2年度に1人1台端末導入後は、AI学習アプリ・STEAM学習サービス・学習支援ソフト、また、学校生活支援ソフト等のクラウドサービスの活用などにより、授業準備や課題作成などの校務負担を軽減しながらも、子供たち一人一人により最適化した教育も実現してきました。

その他にも、保護者とのクラウド連絡ツールの導入により学校または教育委員会と保護者間での情報共有を迅速かつ手軽に行うことが可能となり、出欠席連絡についてもデジタル化する事で、学校と保護者の両者にとっても負担軽減へと繋げることができました。

その上で、今後より一層の校務効率化や負担軽減のために、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、校務DXに係る具体的な取組を次のとおり定めます。

### 【今後の推進】

#### 校務情報化の推進

校務処理の多くが職員室のみに限定されている現状から、より多様な働き方を可能とするために、校務のネットワークを見直し、各教室や市庁舎などでも校務業務が可能な環境を構築していきます。

また、紙ベースの稟議や情報共有（会議・FAX・押印・紙文書での通知等）など紙文化前提の業務フローを見直し、汎用のクラウドサービスを活用する事でペーパーレス化を実現する事や、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果を踏まえながら、業務の負担軽減や効率化、また各種コスト削減へとつなげていきたいと考えております。

### 次世代校務ネットワーク環境構築

現在、安全な業務運用のために、校務業務についてはネットワークを分離し・オンプレミス運用を行っています。しかし、この状態では教職員は職員室以外から校務業務を実施できず、また校務系と学習系で端末を使い分けなければなりません。また、オンプレミス運用は大規模災害等によりデータ消失リスクやデータ管理の負担が発生します。

これらの課題を解決するために、校務系システムを従来のような閉域網運用するのではなく、アクセス制御によるセキュリティ対策などを実施する事でゼロトラスト化を図り、校務系と学習系ネットワークの統合を進めます。また、ゼロトラスト化する事により、従来の境界防御型では脆弱であった、内部からの脅威についても監視を行いながらも、どこからでも安全にアクセスする事を可能ができる環境としていきたいと考えております。

### 次期校務支援システムクラウド化

現在の校務支援システムはハウジング型（閉域ネットワーク内部）であり、県内の自治体と共同で管理運用を行なっています。今後は上記のような「次世代型ネットワーク環境」構築のためにも、また、大規模災害時におけるレジリエンスの観点からもクラウド化を他の自治体と共に進めていきます。

### データ連携基盤（教育ダッシュボード）構築

上記の「次世代校務ネットワーク環境構築」と「次期校務支援システムクラウド化」がなされた際には、「校務系情報」と「学習系情報」さらには「一部教育関連行政情報」などを連携する事で、クラウドやサーバー上に存在する様々なデータを自動的に収集、分析、集計、加工し、視覚的にわかりやすい形とする「教育ダッシュボード化」を進めたいと考えております。

それにより、従来はそれぞれの用途にのみ用いられていたデータを統合的に分析・利用可能となり、学校現場では、子供一人一人のリアルタイムの状況に合わせたきめ細やかな教育を実施し、教育行政としては、エビデンスに基づき、多角的かつ一貫性のある最適化された意思決定へと繋げていきたいと考えております。